

## ソフトウェア組入比率上昇、半導体は銘柄選択重視

米国ネクストビジョンファンド  
(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)  
追加型投信/海外/株式

- ▶ 本レポートでは、当ファンドが投資している「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」(以下投資先ファンド)の足元の市場環境、主要サブセクターにおける運用経過、良好なパフォーマンスをサポートしている要因についてご紹介いたします。

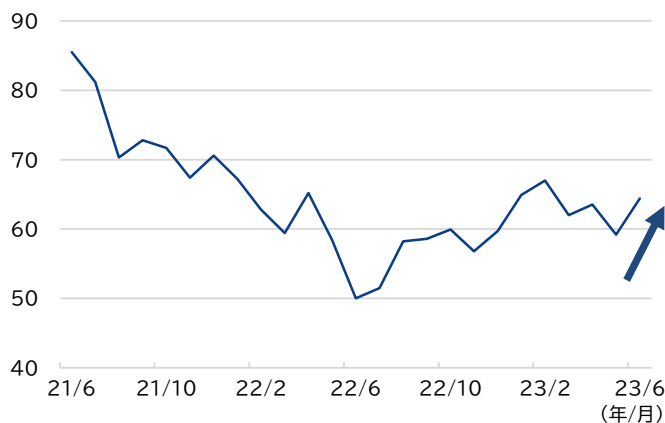
## 想定よりも底堅い米国経済とAIの実現期待

年初には、2023年中の米国景気のマイナス成長入りと、それを受けた米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ打ち止めが予想されていましたが、堅調な個人消費(図表1)、雇用環境等を背景に米国経済は底堅く推移しています。

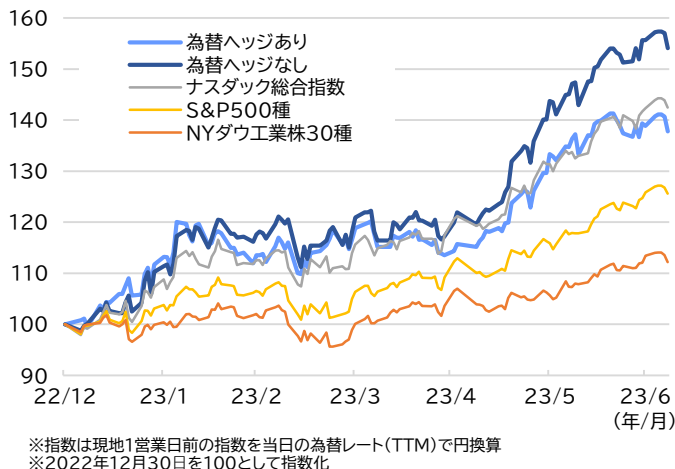
その反面、賃金上昇圧力を背景とした根強いインフレ圧力に対応した引き締めの金融政策の継続や、銀行による貸し出し基準の厳格化などを背景とする、景気の下振れリスクも残っています。

こうした環境の変化を織り込んだ現在の市場コンセンサスでは、2024年のS&P500種指数構成銘柄の1株当たり利益成長率がプラスに転換するとみられています。特にテクノロジー関連セクターについては、雇用削減など収益力の改善への取り組みや、AIを起爆剤とする成長の加速などが利益成長の追い風になると期待されます。

図表1 米ミシガン大学消費者マインド指数の推移  
(期間 2021年6月～2023年6月、月次)



図表2 基準価額と主要株価指数の推移  
(期間 2022年12月30日～2023年7月7日、日次、配当込み)



(図表1～2の出所) Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

本資料では「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)」「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジなし)」を総称して「当ファンド」といいます。投資先ファンドはルクセンブルグ籍外国投資法人「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」(外国籍、日本での取扱いはありません。)であり、当ファンドはそのシェアクラスである「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て、円ヘッジ)」/「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て)」に投資します。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

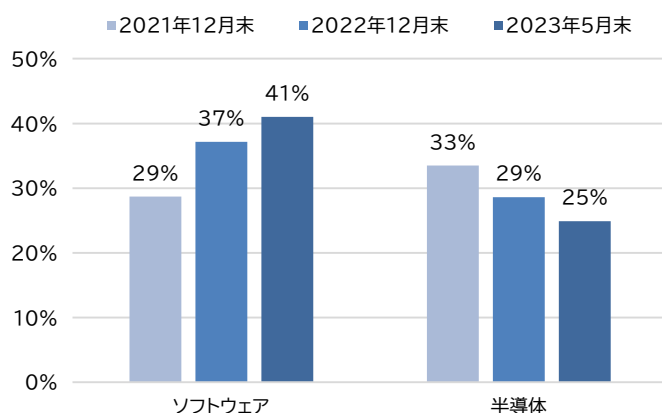
■本資料は情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 良好なパフォーマンスの要因 / セクター比率の機動的な調整

## 株価調整でバリュエーションが魅力的となったソフトウェアセクター

ソフトウェアセクターについては、2021年12月末時点ではバリュエーションが割高であると判断し、少なめの保有としていました。しかし、2022年に株価が大幅に下落したことを好機と捉え、新規銘柄への投資や、バリュエーションが魅力的と判断した銘柄への追加投資などを行いました。

図表3 投資先ファンドにおけるセクター比率の推移



図表4 ソフトウェアセクターで組入比率が増加した銘柄例

	2021年12月末の比率	2023年5月末の比率	年初来騰落率
オラクル	—	3.5%	41.8%
セールスフォース	1.3%	2.7%	58.5%
アドビ	—	2.3%	42.6%

※投資先ファンドが組み入れている有価証券を100%として算出した比率です。  
 ※セクターはJ.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。  
 ※年初来騰落率は、2022年12月29日～2023年7月6日の期間で算出。

(図表3～4の出所) J.P.モルガン・アセット・マネジメントの資料を基にSBI岡三アセットマネジメントが作成

## 個別銘柄選択の重要性が増す半導体セクター

半導体セクターについては、長期ではAIの進展や自動化、脱炭素社会に向けた電化など息の長い変化が進んでいることから有望なセクターと考えています。ただ、今後の成長は企業ごとにばらつきがあると見ており、将来的に企業業績の落ち込みが予想される銘柄や既に企業の成長性が株価に織り込まれたと判断した銘柄について、組入比率を引き下げてきました。

一方、AIの技術進歩は重要な局面を迎えており、設備投資が急速に進み、AIモデルの学習に使われる膨大なデータの整備と、データ処理を行う高性能プロセッサの大幅な性能改善の結果、AIの普及速度が加速しています。開発環境が整いつつある現在は、AIによるパラダイム・シフト(従来の常識を覆すような革新的変化)の初期段階であり、今後ソフトウェア・コーディングやプログラミングが社会に普及する過程で、様々な形でAIが活用されるようになって考えています。その中で高い競争力を持つと考える銘柄への投資を継続しています。

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

## &lt;本資料に関してご留意いただきたい事項&gt;

■本資料は情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 良好なパフォーマンスの要因 / 個別銘柄選択

### 半導体セクターの銘柄選択

#### 組入比率増加および新規投資の銘柄例

##### エヌビディア

AIチップ(AIの演算処理を高速化させるための半導体)の需要が高まる中で高い競争力を維持できると考え、半導体セクターの中で最も多く組み入れました。

##### ラムバス

2023年2月に新規投資。CPU/GPUでデータをより高速に処理するために必要なサーバー向けDRAM(半導体メモリの一種)に特化した企業です。AIの進展に伴って、データセンターで使用されるDRAMの重要性が増し、CPUの構造も多様化する中、同社のメモリー事業はさらなる成長が期待されます。

図表5 半導体セクターで組入比率が増加した銘柄例

	2021年 12月末 の比率	2023年 5月末 の比率	年初来 騰落率
エヌビディア	3.0%	4.5%	188.3%
ラムバス	—	0.6%	67.5%

※投資先ファンドが組み入れている有価証券を100%として算出した比率です。  
※セクターはJ.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。  
※年初来騰落率は、2022年12月29日～2023年7月6日の期間で算出。

#### 売却した銘柄例

##### エンフェーズ・エナジー

ソーラーパネルのマイクロインバーターを提供する企業。高い金利環境や補助金の削減などが米国の住宅向け太陽光発電市場に影響を及ぼすと判断して2023年3月に全売却しました。

##### テラデザイン

半導体自動検査装置メーカー。スマートフォンやPC等個人向け端末の低迷の影響を受けると判断して2023年5月に全売却しました。

図表6 半導体セクターで全売却した銘柄例

	2021年 12月末 の比率	2023年 5月末 の比率	年初来 騰落率
エンフェーズ・エナジー	1.8%	—	-39.2%
テラデザイン	2.5%	—	22.4%

※投資先ファンドが組み入れている有価証券を100%として算出した比率です。  
※セクターはJ.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。  
※年初来騰落率は、2022年12月29日～2023年7月6日の期間で算出。

(図表5～6の出所) J.P.モルガン・アセット・マネジメントの資料を基にSBI岡三アセットマネジメントが作成

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

#### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 運用状況(作成基準日:2023年7月7日)

### ファンドデータ

当ファンドの7月7日の基準価額は、為替ヘッジありが7,484円、為替ヘッジなしが10,119円となっています。

#### <為替ヘッジあり> 基準価額の推移

(2021年10月25日~2023年7月7日、日次)



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

ファンドデータ	
基準価額	7,484円
残存元本	6,878百万円
純資産総額	5,147百万円
ポートフォリオ構成比率	
JPモルガン・ファンズ—USテクノロジー・ファンド (Iクラス)(円建て、円ヘッジ)	97.9%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品その他	1.9%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

#### <為替ヘッジなし> 基準価額の推移

(2021年10月25日~2023年7月7日、日次)



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

ファンドデータ	
基準価額	10,119円
残存元本	69,542百万円
純資産総額	70,373百万円
ポートフォリオ構成比率	
JPモルガン・ファンズ—USテクノロジー・ファンド (Iクラス)(円建て)	98.0%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品その他	1.8%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

※7月7日の基準価額には、米国現地で6日までの動きが反映されています。なお、投資先ファンドは取引時間中の価格で評価を行っているため、引値ベースの動きとは異なる点にご留意ください。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

#### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

# 米国ネクストビジョンファンドに関する留意事項

## 【SBI岡三アセットマネジメントについて】

商号:SBI岡三アセットマネジメント株式会社

SBI岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

## 【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
  - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「信用リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。
- ※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

## 【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
  - 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
  - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
  - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
  - 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

## 【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
  - 購入時手数料 : 購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)  
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
  - 換金手数料 : ありません。
  - 信託財産留保額 : ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
    - 運用管理費用(信託報酬)
      - : 純資産総額×年率1.298%(税抜1.18%)
    - 運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担
      - : 純資産総額×年率1.948%程度
- 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
    - 監査費用 : 純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)
  - 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

## 販売会社一覧

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。  
なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

(2023年7月12日現在)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)